

ふりがな 氏 名		あいざわ なおき 相澤 直樹			
職 名	教授	所 属 講 座	人間発達環境学研究科 人間発達専攻人間発達講座	専任・兼任 の別	専任
略 歴					
学 歴	年 月	事 項			
	1990年 3月	京都市立堀川高等学校 卒業			
	1991年 4月	大阪大学人間科学部人間科学科 入学			
	1995年 3月	大阪大学人間科学部人間科学科 卒業			
	1995年 4月	大阪大学人間科学部研究生（1995年4月～1996年3月）			
	1996年 4月	大阪大学大学院人間科学研究科教育学専攻博士前期課程 入学			
	1998年 3月	大阪大学大学院人間科学研究科教育学専攻博士前期課程 修了			
	1998年 4月	大阪大学大学院人間科学研究科教育学専攻博士後期課程 入学			
	2000年12月	大阪大学大学院人間科学研究科教育学専攻博士後期課程 退学			
職 歴	年 月	事 項			
	2001年 1月	神戸大学大学院総合人間科学研究科 助手			
	2004年11月	神戸大学大学院総合人間科学研究科 講師			
	2007年 4月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 講師			
	2010年 6月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授（～現在）			
学 位	年 月	事 項			
	2015年12月	博士(学術)(神戸大学)			

【研究活動】

I. 著書

＜単著＞

1. 青年期における対人恐怖傾向と自己愛傾向に関する心理発達的研究 風間書房 2021. 1
(相澤直樹) 272p.

＜編著・共著＞

1. 職場のメンタルヘルス相談室——心のケアをささえる実践 新曜社 2009. 9
的Q&A—— pp. 73-91, pp. 93-111
(菅佐和子・相澤直樹・播磨俊子・北田雅・住田竹男著) pp. 157-167
「Type 5 理系おこさんの落とし穴」
「Type 6 いかにともしがたい心の事情」
「関連論考①若手労働者の心——30代メンタルヘルス不全者の増加をふまえて」

＜分担執筆＞

1. カウンセリングを学ぶ人のために 世界思想社 2003.10
(播磨俊子・佐藤眞子・澤田瑞也編) pp. 252-273, pp. 274-295
「カウンセラーに求められるもの」 pp. 328-330, pp. 332-333
「カウンセラー養成におけるスーパービジョンの意義——スーパーバイザーとしての経験を中心に」
「カウンセラーの資格に関するガイダンス」
「臨床心理士資格について」
2. さまよえる青少年の心——アイデンティティの病理—— 北大路書房 2004. 9
(谷冬彦・宮下一博編著) pp. 43-49
「自意識過剰」
3. ソンディ・テスト入門 ナカニシヤ出版 2004.11
(奥野哲也監修 内田裕之・石橋正浩・串崎真志編) pp. 102-113
「事例検討(3)——病院での事例」
4. 増補改訂版 キーワード 人間と発達 大学教育出版 2007. 4
(神戸大学発達科学部編集委員会編) pp. 44-45
「思春期(Puberty)——自立のはじまりとそのつまずき」
5. シードブック 教育心理学 建帛社 2008. 4
(本郷一夫・八木成和編著) pp. 174-185
「教育相談の進め方」
6. 新・青年心理学ハンドブック 福村出版 2014. 1
(後藤宗理・二宮克美・高木秀明・大野久・白井利明・平石賢) p. 645

II. 学術論文

<査読付論文>

1. 自己愛的人格における誇大特性と過敏特性
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.5926/jiep1953.50.2.215> 教育心理学研究 50-2 2002. 6
pp. 87-96
2. 青年期の対人恐怖心性与自己不一致の関係について
(相澤直樹) 人間科学研究 10-1 2002.11
pp. 77-88
3. 強迫性障害の一事例研究——図版任せの観点から
——
(相澤直樹) ロールシャッハ法研究 7 2003.11
pp. 62-73
4. 対人恐怖と自己愛との関係に関する再整理の試み
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81001010> 神戸大学大学院人間発達環境学 2009. 3
研究科研究紀要 2-2
pp. 1-10
5. 青年期における対人恐怖的傾向与自己愛的傾向を測定する短縮版尺度作成の試み
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81001679> 神戸大学大学院人間発達環境学 2009. 9
研究科研究紀要 3-1
pp. 1-9
6. 対人葛藤場面における他者の意図の判断と情緒的反応について——他者の意図としての敵意と嫌悪に着目して——
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81002091> 神戸大学大学院人間発達環境学 2010. 3
研究科研究紀要 3-2
pp. 1-10
7. 対人葛藤場面における他者の意図の判断と情緒反応について——場面想定法による敵意帰属と嫌悪判断の測定とその妥当性——
(相澤直樹) 心理臨床学研究 29-3 2011. 8
pp. 365-370
8. 青年期における攻撃性について——第二の個体化過程と対人葛藤場面における他者の意図の判断から——
(紺真理・相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81003434> 神戸大学大学院人間発達環境学 2011. 9
研究科研究紀要 5-1
pp. 9-18
9. 対人恐怖における認知の偏りの内容特定性について——敵意帰属との関連から——
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81008561> 神戸大学大学院人間発達環境学 2014. 9
研究科研究紀要 8-1
pp. 103-106
10. 児童期後期における社交不安(シャイネス)の発達の変 神戸大学大学院人間発達環境学 2015. 3

- 化——対人場面における他者の意図の判断との関連から——
(相澤直樹・山根隆宏)
<https://doi.org/10.24546/81008826> 研究科研究紀要 8-2 pp. 67-75
11. 社交不安に対する対人場面の解釈の偏りと自動思考の効果
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.4992/jjpsy.86.13085> 心理学研究 86-3 2015. 8 pp. 200-208
12. 青年期における対人恐怖傾向と自己愛傾向に関する心理発達的研究
(相澤直樹)
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D2003295> 神戸大学大学院人間発達環境学 2015.12 研究科博士学位論文
13. Differences in brain hemodynamics in response to achromatic and chromatic cards of the Rorschach: A fMRI study.
(Ishibashi, M., Uchiumi, C., Jung, M., Aizawa, N., Makita, K., Nakamura, Y., & Saito, D. N.)
<https://dx.doi.org/10.1027/1192-5604/a000076> Rorschachiana 37-1 2016. 4 pp. 41-57
14. 青年期におけるいじめの長期的影響の評価——いじめ体験からの成長要因を探る——
(長田真人・相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81009713> 神戸大学大学院人間発達環境学 2016. 9 研究科研究紀要 10-1 pp. 7-15
15. いじめによる心の傷——長期的影響についてのレビュー——
(長田真人・相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81010305> 神戸大学発達・臨床心理学研究 2018. 3 17 pp. 8-15
16. Near-infrared spectroscopy detects prefrontal activities during Rorschach inkblot method.
(Aizawa, N., Ishibashi, M., Nakamura, Y., Uchiumi, C., Makita, K., & Iwakiri, M.)
<https://dx.doi.org/10.1111/jpr.12195> Japanese Psychological Research 2018.10 60-4 pp. 242-250
17. 認知特性体験尺度作成の試み——因子構造と構成概念妥当性の検討——
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81011695> 神戸大学発達・臨床心理学研究 2019. 3 18 pp. 1-9
18. 何が過去のいじめ体験からのPTGを導くのか——テキストマイニングによるPTGの検討——
(長田真人・相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81011697> 神戸大学発達・臨床心理学研究 2019. 3 18 pp. 14-20

19. 何が過去のいじめ体験からのPTGを導くのか(2)——
体験の内容と生成過程の自由記述——
(長田真人・相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81013016> 神戸大学発達・臨床心理学研究 20 2021. 2
pp. 35-40
 20. いじめの長期的影響——体験への意味づけとしての心的外傷後成長に注目して——
(長田真人・相澤直樹)
https://doi.org/10.50904/sutomane.17.1_60 ストレスマネジメント研究 17-1 2021. 9
pp. 60-68
 21. コロナ禍の遠隔心理支援の利点と問題点のインタビューによる検討
(伊藤俊樹・野上慶子・清原舞子・山根隆宏・安達友紀・吉田圭吾・河崎佳子・相澤直樹・谷口あや) 心理臨床学研究 40-2 2022. 6
pp. 161-167
 22. 自伝的推論が自己のストーリーを構成する過程の検討
(中園佐恵子・相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/0100481766> 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要 16-2 2023. 3
pp. 19-27
 23. 新型コロナウイルス流行初期から緊急事態宣言解除後の遠隔心理支援実態調査
(谷口あや・山根隆宏・野上慶子・安達友紀・伊藤俊樹・河崎佳子・吉田圭吾・相澤直樹・清原舞子) 心理臨床学研究 41-6 2024. 2
pp. 558-546
 24. 新型コロナウイルス感染症流行第一波から第二波期の遠隔心理支援実施が心理職の心理的ストレスおよび精神的健康に及ぼした影響——日本国内における検討——
(谷口あや・山根隆宏・野上慶子・安達友紀・伊藤俊樹・河崎佳子・吉田圭吾・相澤直樹・清原舞子)
<https://doi.org/10.24546/0100491711> 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要 18-2 2024. 9
pp. 43-49
 25. 自己愛傾向に対する敵意帰属と怒りの効果——有意領域アプローチによる調整効果の検討——
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/0100493536> 神戸大学発達・臨床心理学研究 24 2025. 2
pp. 9-15
 26. シンボル表象の観点からのロールシャッハ事例解析の試み
(相澤直樹) ロールシャッハ法研究 29 2025.11
pp. 15-24
- <査読なし論文>**
1. 不登校傾向を呈した9歳男児A君とのプレイセラピー
(相澤直樹) 大阪大学人間科学部心理教育相談室紀要 3 1997. 8
pp. 136-144

2. パニック障害を呈した29才男性との面接過程
(相澤直樹) 大阪大学人間科学部心理教育相 1998.10
談室紀要 4
pp. 39-47

3. ナルシシズムに関する一考察——現象像・病態像, 及び, 精神力動論の整理の試み——
(相澤直樹) 大阪大学教育学年報 4 1999. 3
pp. 171-186
<https://doi.org/10.18910/11117>

4. 失神発作を契機に不登校傾向を呈した男子中学生との面接過程——心理療法における理解に関する一考察——
(相澤直樹) 大阪大学人間科学部心理教育相 1999.10
談室紀要 5
pp. 15-23

5. ナルシシズム性人格に関する一研究——自尊感情の水準及び不安定性との関係についての実証的研究——
(相澤直樹) 大阪大学教育学年報 5 2000. 3
pp. 99-111
<https://doi.org/10.18910/4536>

6. 自己愛性人格に関する一研究(3)——自己不一致の不安定さとの関係について——
(相澤直樹) 大阪大学教育学年報 6 2001. 3
pp. 211-222
<https://doi.org/10.18910/7310>

7. 青年期自己愛的人格における誇大特性と過敏特性の関係について——相関分析, クラスタ分析, 文章完成法を用いた補足的研究——
(相澤直樹) 神戸大学発達科学部研究紀要 2003. 9
11-1
pp. 147-159
<https://doi.org/10.24546/81000565>

8. 心理療法と現実問題についての一試論
(相澤直樹) 神戸大学発達科学部研究紀要 2005. 9
13-1
pp. 79-83
<https://doi.org/10.24546/81000636>

9. 自己愛に関する最近の研究動向——調査実証研究を中心に——
(相澤直樹) 神戸大学発達科学部研究紀要 2006.10
14-1
pp. 109-123
<https://doi.org/10.24546/81000676>

10. 心理検査の実施における留意点について
(相澤直樹) 神戸大学発達科学部研究紀要 2007. 3
14-2
pp. 227-230
<https://doi.org/10.24546/81000702>

11. 自己愛(narcissism)概念の再検討に向けて——フロイ 神戸大学大学院人間発達環境学 2008. 3

- トにおける視座の展開に照らして①——
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/80060032> 研究科研究紀要 1-2
pp. 129-138
12. 自己愛(narcissism)概念の再検討に向けて——フロイトにおける視座の展開にてらして②——
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81000818> 神戸大学大学院人間発達環境学 2008. 9
研究科研究紀要 2-1
pp. 149-158
13. ロールシャッハ検査法の反応過程に関する考察——
認知心理学・脳科学的知見を加えて——
(中村有吾・内海千種・相澤直樹・石橋正浩・岩切昌宏)
<https://osaka-kyoiku.repo.nii.ac.jp/records/2076131> 発達人間学論叢 12 2009. 2
pp. 45-52
14. 近赤外分光法(NIRS)による前頭葉血流動態の測定に
関する文献的検討——認知課題を中心に——
(相澤直樹・内海千種・中村有吾・牧田潔・石橋正浩・岩切昌
宏)
<https://osaka-kyoiku.repo.nii.ac.jp/records/2090298> 学校危機とメンタルケア 2 2010. 3
pp. 59-72
15. ロールシャッハ・テストの反応過程における認知・神経
心理学的検討(Ⅰ)——情報処理モデルの観点から
——
(中村有吾・石橋正浩・相澤直樹・内海千種・牧田潔・岩切昌
宏)
<https://osaka-kyoiku.repo.nii.ac.jp/records/2090297> 学校危機とメンタルケア 2 2010. 3
pp. 47-58
16. 意図の不明確な対人挑発場面と対人疎外場面の作成
に関する予備的研究
(相澤直樹)
<https://doi.org/10.24546/81002989> 神戸大学大学院人間発達環境学 2011. 3
研究科研究紀要 4
pp. 107-122
17. fMRIによるロールシャッハ法課題の研究に向けて
(石橋正浩・牧田潔・相澤直樹・内海千種・中村有吾)
<https://osaka-kyoiku.repo.nii.ac.jp/records/2090421> 発達人間学論叢 15 2012. 3
pp. 51-56
18. ロールシャッハ課題遂行時の前頭前野機能について
——近赤外分析法(NIRS)による試行的研究——
(相澤直樹・石橋正浩・中村有吾・牧田潔・内海千種)
<https://doi.org/10.24546/81005348> 神戸大学大学院人間発達環境学 2013. 3
研究科研究紀要 6-2
pp. 201-206
19. 子ども虐待に関するロールシャッハ法研究の文献的検
討
(相澤直樹・中山明子)
<https://doi.org/10.24546/81005373> 神戸大学大学院人間発達環境学 2013. 9
研究科研究紀要 7-1
pp. 187-200
20. 脳機能から考えるロールシャッハ法課題の反応過程の 発達人間学論叢 17 2014. 3

- 概観 pp. 77-82
(石橋正浩・内海千種・相澤直樹)
<https://osaka-kyoiku.repo.nii.ac.jp/records/2091212>
21. 子どもの社交不安に関する心理発達の研究について 神戸大学大学院人間発達環境学 2014. 3
——研究ノート—— 研究科研究紀要 7-2
(相澤直樹) pp. 149-156
<https://doi.org/10.24546/81006277>
22. 青年期研究のこれまでとこれから——神戸大学の青年 教育心理学年報 54 2015. 3
期心理学を中心に—— pp. 181-186
(相澤直樹・谷冬彦・森岡正芳・原田新・白井利明・大野久)
<https://doi.org/10.5926/arepj.54.181>
23. 心理教育相談室の相談支援活動と社会貢献——10 神戸大学大学院人間発達環境学 2016. 3
年間の活動を振り返って—— 研究科発達支援インスティテュー
(相澤直樹・森岡正芳・吉田圭吾・河崎佳子・伊藤俊樹) ト心理教育相談室紀要 6
pp. 1-9
24. 神戸大学大学院人間発達環境学研究科附属発達支 神戸大学大学院人間発達環境学 2018. 3
援インスティテュート心理教育相談室における実習の 研究科発達支援インスティテュー
意義について——実習における習得程度と職業的ア ト心理教育相談室紀要 8
イデンティティの関連について—— pp. 15-23
(相澤直樹・吉田圭吾・河崎佳子・伊藤俊樹・山根隆宏・伊藤篤
・津田英二)
25. 精神障害の発生と維持に関わる認知の偏りの文献的 神戸大学大学院人間発達環境学 2018. 9
検討 研究科研究紀要 12-1
(相澤直樹) pp. 75-84
<https://doi.org/10.24546/81010562>
26. 認知特性体験尺度作成の試み——因子構造と構成 神戸大学大学院人間発達環境学 2019. 9
概念妥当性の検討②—— 研究科研究紀要 13-1
(相澤直樹) pp. 67-72
<https://doi.org/10.24546/E0041910>
27. 大阪大学式ロールシャッハ法(阪大法) ロールシャッハ法研究 26-s 2022.11
(石橋正浩・高橋裕子・小笠原將之・飯田信也・橋本朋広・相澤 pp. 13-16
直樹・川口裕子・松本恵・田中美穂・福永知子)
28. Osaka University Rorschach System (OURS) Japanese Journal of the Rorschach 2022.11
(Ishibashi, M., Takahashi, Y., Ogasawara, M., Hashimoto, T., and Projective Methods 26-s
Aizawa, N., Kawaguchi, Y., Matsumoto, M. Tanaka, M., pp. 43-46
Fukunaga, T.)
29. インクプロット法を用いた幼児のシンボル表象発達に 神戸大学大学院人間発達環境学 2025. 3
関する予備的研究 研究科研究紀要 18-2

- (相澤直樹・田中孝尚) pp. 69-78
<https://doi.org/10.24546/0100494064>
30. インクブロット法を用いた幼児の表象発達に関する予備的研究——使用カードの選択と実施法上の工夫—— 神戸大学大学院人間発達環境学 2026. 3
 研究科研究紀要 19-2
 pp. 61-68
 (相澤直樹・田中孝尚)
<https://doi.org/10.24546/0100503501>

Ⅲ. その他

1. 法と心理学の事典 朝倉書店 2011. 5
 (越智啓太・藤田政博・渡邊和美編)
 担当項目「臨床心理学」
 「事例研究」
 「多変量解析」
 pp. 104-105, pp. 112-113
 pp. 120-123
2. クリニックでの臨床心理士の役割 月刊少年育成第46巻第2号 2001. 2
 (相澤直樹)
 pp.14-18
3. 「国際ロールシャッハ及び投映法学会第21回大会」に
 参加して ロールシャッハ法研究 18 2014.11
 (相澤直樹)
 pp.40-41
4. 増田論文「デートDVを機に、健康な自己愛(自尊心)を見つめる20代女性との面接過程」についてのコ
 メント 神戸女学院大学大学院人間科学 2016. 3
 (相澤直樹)
 研究科心理相談室紀要 17
 pp. 62-65
5. 神戸大学大学院人間発達環境学研究科発達支援イ
 ンスティテュート心理教育相談室子育て支援セミナー 神戸大学大学院人間発達環境学 2017. 3
 『親の悩みと子どもの気持ち』 研究科発達支援インスティテュー
 ト心理教育相談室紀要 7
 (相澤直樹・吉田圭吾・河崎佳子・伊藤俊樹)
 pp. 18-22
6. 神戸大学大学院人間発達環境学研究科発達支援イ
 ンスティテュート心理教育相談室子育て支援セミナー 神戸大学大学院人間発達環境学 2018. 3
 2017『夫婦のきずなと子どもの心』 研究科発達支援インスティテュー
 ト心理教育相談室紀要 8
 (相澤直樹・吉田圭吾・伊藤俊樹・山根隆宏)
 pp. 24-28
7. 九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理セ
 ンター訪問報告 神戸大学大学院人間発達環境学 2018. 3
 (山根隆宏・相澤直樹) 研究科発達支援インスティテュー
 ト心理教育相談室紀要 8
 pp. 29-32

Ⅳ. 学会での口頭発表等(多数に及ぶ場合は本人が発表したもので主なもの10件)

1. 多様な認知の偏りの背景的要因を探る——総合的な 日本発達心理学会第30回大会 2019. 3

認知特性体験尺度作成の試み①——

(相澤直樹)

- | | | | |
|-----|---|--|---------|
| 2. | Factor Structure of Cognitive Biases in Japanese Young Adults: Construction of the Comprehensive Cognitive Biases Questionnaire.
(Aizawa, N) | The 19th European Conference on Developmental Psychology | 2019. 8 |
| 3. | The relationship between stress response and cognitive biases: The moderating effects of extraversion.
(Aizawa, N) | The 32nd International Congress of Psychology 2020+ | 2021. 7 |
| 4. | Rorschach and representational functions from developmental perspectives.
(Aizawa, N) | Rorschach Centenary Congress 2022 | 2022. 7 |
| 5. | シンボル表象の観点からのロールシャッハ事例検討——シンボル反応に着目して——
(相澤直樹) | 日本ロールシャッハ学会第27回大会 | 2023.12 |
| 6. | ロールシャッハ法と絵画的表象の発達に関する文献的検討
(相澤直樹) | 日本発達心理学会第35回大会 | 2024. 3 |
| 7. | 幼児期におけるロールシャッハ反応の発達の变化——シンボル表象の観点からの予備的研究——
(相澤直樹) | 日本ロールシャッハ学会第28回大会 | 2024.10 |
| 8. | インクブロット法にみる幼児のシンボル表象の発達
(相澤直樹・田中孝尚) | 日本発達心理学会第36回大会 | 2025. 3 |
| 9. | ロールシャッハ・インクブロット法反応の発達と誤信念課題
(相澤直樹・松本恵・西恭平・平田真世・上田真菜) | 日本心理臨床学会第44回大会 | 2025. 9 |
| 10. | ロールシャッハ・インクブロット法と幼児期の表象発達——反応の説明に着目した予備的研究——
(相澤直樹・田中孝尚) | 日本発達心理学会第37回大会 | 2026. 3 |